

烏丸資慶和歌詠方

W 皇  
911.107  
K a  
0

↓ 62250

911.107

Ka



烏丸資慶卿和歌詠方

和歌詠方  
定家歌集はかたはつととも先和歌  
詠とらとつはよのちいこ是を母とかく  
たつ(さる)ひあゝ意は事かさいけの  
方一とく少ゆやうよと詠とら事  
うきさこへまへハちいこ何りうんき  
うちあゝのたもひよさるんさ何さ



らうよさこへてらうしんやうよと証を  
あさやうよよみ成統よらひまを  
よむっひてくわうまいこさくをへん  
きんの加ありへいひとささのりり  
事よひ

才二くさあへて後けんさきん河さ  
ゆうひらうんをきんやうかきん  
すき事よひさくさかあるん又ハ歌の

河さうよかさうあかあるんあはる  
ちのそさす川さ事  
才三句乃さんよひのひさる句を  
りつつけいあまかきわらありの  
せもーらうさ句のつさるいあさけ  
てせもーくひむさんい河へくさん  
河さへくひさつぬくよひけし

新院神會よ七條の詠 法華さ



あうらうへくひさては日お中よて  
詠多も川しけきそ一むさへくひ  
そまひここのけいこまゆいのくは又女能  
とるまへ風神をささるいひゆちく  
正ふよるまへき海くひすさるは  
おちる海しよるものまき定家  
家隆いあつは十神と名付とて一神つ  
名のりひてその神とるゆかりよ

詠とる人の者さここの事よの棟保初歌  
も上手切志のうりつひてるさよいさ  
風神のさへいひけるさいつねる  
そよの海へてやつしそ希逸の神  
の事たもしるさるをよひける  
こつく何る海へさるあくひ及理き  
風神いやういあおまはひのひを  
ちまたおしあひさるまへへ



ととる侍くもつゝさかへちるし  
あんなに何あつゝも半こみりよ  
字とゆへに路侍く  
あなうしよ



